

コロナワクチン接種後の神経障害はあるのか？

◎高橋 修¹⁾

東邦大学 医療センター佐倉病院¹⁾

【背景】COVID-19は、我々人類の生活様式を一変させ変異ウイルスの出現によって未だ終息の兆しが見えていない。そんな中、日本ではコロナワクチン接種率が1回目、2回目ともに70%を超え11月現在、感染者数は落ち着いている。今回、ワクチン摂取後の副反応で手足の痺れを訴えた患者10名の神経伝導検査を経験したので報告する。【症例】男性2名、女性8名でその内、上肢の痺れ6名、上下肢の痺れ3名、下肢の痺れは1名であった。【方法】神経伝導検査の運動：正中・尺骨・腓骨・後脛骨神経、感覚：正中・尺骨・腓腹神経と上下肢のF波を測定した。

【結果】10名のうち、上記神経で神経伝導検査に異常をきたしたのは、0名であった。【考察・まとめ】インフルエンザワクチン接種後の副反応として稀ではあるがギランバレー症候群が言われている。今回、コロナワクチン接種後の10名での検討では、神経伝導検査の異常はとらえられなかった。検査した患

者の訴えが、日によって痺れが移動するといった患者も見受けられたことから身体表現性障害も疑われた。また上肢の外・内側前腕皮神経、下肢の大体皮神経の検査をできなかったことから神経障害がとえられなかった可能性も否定できない。

今後は、上肢・下肢の皮神経についても検査していきたい。

東邦大学医療センター佐倉病院臨床生理機能検査部 PHS6207 高橋